

令和7年度学校関係者評価委員会

開催日：令和8年5月15日（金）

場所：町田デザイン&建築専門学校 3号館103教室

参加者：天野雅秀委員, 細野泰司委員, 鴨志田功委員, 板倉真紀委員

井上博行校長, 山本健副校長, 菅野修学事部長, 井比敏紀次長, 市川正人法人本部長

学校関係者評価委員会 ブリーフィング・ドキュメント（2026年5月15日開催）

エグゼクティブ・サマリー

本ドキュメントは、2026年5月15日に実施された専門学校関係者評価委員会の議事内容を網羅的に集約・分析したものである。今回の委員会では、少子化という厳しい社会情勢下における学校の「生存戦略」と「教育の質向上」が主要な論点となった。主な成果として、通信制建築学科における二級建築士合格率が49%（全国平均22%を大幅に上回る）を達成している点が挙げられた。一方で、通信制利用者の減少傾向や、学生の基礎学力低下、メンタルヘルス課題への対応が喫緊の課題として共有された。また、生成AIの普及に伴うリテラシー教育の必要性や、資格取得支援（施工管理技士の年齢制限緩和に伴う早期受験奨励）、キャリア教育における保護者を含めた三者間のミスマッチ防止策など、時代に即した具体的な改革案が議論された。



1. 通信制教育の現状と差別化戦略

通信制課程は開講10周年を迎え、一定の成果を収めている。しかし、大学による通信教育参入などの影響により、在籍者数は減少傾向にある。

教育成果とカリキュラムの改良

- **高い合格実績：** 二級建築士試験において、全国平均22%に対し、当該校は49%という極めて高い合格率を維持している。
- **弱点補強の徹底：** 受験生が苦手とする「建築法規」や「構造力学」の講義を試験前に実施し、合格率の向上を図っている。
- **手書き製図の重視：** 実務ではCADが主流だが、国家試験が手書き（平行定規使用）であるため、2・3年次の製図授業を通年化し、アナログ技術を強化することで、スクーリングのない他校との差別化を図っている。

在籍状況の推移（実績ベース）

年度, 在籍数（名）

令和6年度, 309

令和7年度, 282

令和8年度, 249

※減少傾向に歯止めをかけるため、募集開始時期を従来の秋口から7月に前倒しするなどの対策が検討されている。

2. 学生の変容と支援体制の拡充

学生の基礎学力の低下や精神的な脆さに対し、多角的な支援制度の導入が進められている。

メンタルヘルスとドロップアウト対策

- **外部専門機関との連携：** 従来の週1回のカウンセリングに加え、近隣の診療所と提携。月に最大10回、専門家が訪問し対面・LINEでの相談に応じる体制を構築した。
- **退学率の現状：** 中間部（昼間部）の退学率は6～8%程度で推移。主な理由はメンタル面の問題である。一方、通信制の退学理由は仕事との両立困難が大半を占める。

経済的支援

- **学費未納ゼロの実績：** 公的な修学支援制度の活用を促すことで、昨年度の学費未納による退学者はゼロを達成。
- **企業奨学金の検討：** 慢性的な人材不足に悩む企業が学費を肩代わりし、卒業後の入社を条件とする「企業型奨学金」の活用も視野に入れている。

3. キャリア教育と資格取得支援

出口指導（就職・資格）においては、時代の変化に合わせたスピード感のある対応が求められている。

資格取得の早期化とインセンティブ

- **施工管理技士の戦略的受験：** 制度改正により17歳以上（二級）で受験可能となったことを受け、3年次在籍中の全員受験を目指す。
- **モチベーション維持：** 合格者に対する学費免除や商品授与などのインセンティブ付与、学内への氏名掲示による名誉の付与を検討中。

就職支援とミスマッチ防止

- **内定の早期化への対応：** 高校生の進路決定が早まっている現状に合わせ、キャリア教育を1年次前期からに前倒しする。
- **保護者との連携：** 毎年1月に保護者向け就職説明会、3月に三者面談を実施。学生の意向と保護者の期待のズレを解消し、ポジティブな就職活動を支援する。

4. 教育環境のDXとAIリテラシー

急速に普及する生成AIへの対応と、ICT環境の整備が議論の焦点となった。

生成AIへの対応方針

- **現状：** 卒業制作等において、レイアウトやデザインにAIを活用する学生が出現している。

- **課題：** 教職員側の知識習得が喫緊の課題。単なる禁止ではなく、AIがある前提でどのように使いこなすか、また「考える力」をどう養うかというリテラシー教育の方針策定を急ぐ。

情報インフラの更新

- **ネットワーク増強：** 学生が1人で複数台（スマホ、タブレット、PC）の端末を接続する現状に合わせ、Wi-Fiルーターの増設と回線容量の拡大を実施。5～7年サイクルでの機器更新を計画的に進める。

5. 社会貢献と地域・業界連携

実学教育の場として、外部コンペや地域連携を積極的に活用している。

- **コンペ実績：** タリーズコーヒーの店舗装飾（18作品採用）、町田市のポスターコンペ、消防署の啓発ポスターなど、多数の受賞・採用実績を上げている。
- **「キャリアマップ」の活用：** 就職アプリを通じてポートフォリオを公開し、企業が学生の作品を直接閲覧できる仕組みを導入。企業からのフィードバックを教育に還元する研究会も発足した。

6. 組織運営と教職員の質向上

教職員の高齢化や、非常勤講師とのコミュニケーションが課題として挙げられた。

- **教職員研修：** 年4回の全体研修を実施。AI、コンプライアンス（ハラスメント防止、性犯罪防止）、保護者対応などのテーマを扱っている。
- **特育生（特別育成学生）制度：** 卒業生を学校に残し、将来の講師候補として育成する仕組みを継続。現在約10名の卒業生が教職員・講師として勤務している。
- **授業アンケートの改善：** Googleフォームを活用した無記名アンケートにより、回答率が前期48.2%から後期79.4%へ大幅に改善。教員がLINE等で意義を直接伝えたことが功を奏した。

7. 委員からの主な提言

- **合格実績の可視化：** 合格率49%という驚異的な数字を、他校（特にスクーリングのない大学通信教育）と比較してより強力にアピールすべきである。
- **人間力の育成：** 専門技術は企業に入ってからでも学べるが、挨拶やコミュニケーションといった「人間としての基礎力」こそを学校で徹底して教育してほしい。
- **同窓会の活性化：** 卒業生との繋がりを強化するため、SNSや交流サイトの活用、学科ごとの同窓会組織の構築が必要である。